

第1回開催 知事と語ろう市町村ミーティングin朝日町

【と き】平成22年5月14日（金） 14:00～16:00

【ところ】創遊館

【参加者】参加者総勢約140名



- 【1 子育て支援の強化について（小学生医療費の無償化）】
- 【2 宮宿商店街の活性化について（カラー舗装の要望）】
- 【3 県道宮宿白滝線「道陸の片洞門」の改修について】
- 【4 県道289号線の未舗装部分の改修について】
- 【5 特別支援学校のスクールバス運行について】
- 【6 高校再編について】
- 【7 県道左沢浮島線の改良について】
- 【8 おいしい山形プラザの収益について】
- 【9 知事から見た朝日町の印象について】
- 【10 知事がいつも輝いている秘訣について】
- 【11 りんご新品種「ファーストレディ」のトップセールスについて】
- 【12 りんご新品種「ファーストレディ」の許諾権について】
- 【13 山形セレクションについて】
- 【14 広域的観光バックアップについて】
- 【15 子育て支援について】
- 【16 非常勤講師の採用と教育の質の確保について】

- 【1 子育て支援の強化について（小学生医療費の無償化）】

☆地区名が、玉ノ井というところになります。現在、小学校1年生の子どもを持つ親です。よろしくお願いたします。私の方から子育て支援関係のほうについて、ご検討していただきたいお願いがございます。子を持つ親といたしましては子どもの健康が何より一

番心配です。朝日町には小児科や耳鼻科、皮膚科などがございません。専門の医療機関を受診するためには、寒河江市や山形市まで行かなければならないのが現状です。遠くて大変ですし、経済的にも負担が大きいです。今現在、朝日町では未就学児は外来、入院ともに無料、小学生は入院のみ無料となっております。また父子家庭に対しましても、他の町に先駆けて医療費の助成がなされているようです。このような朝日町の取り組みが、私たち親にとって子育てをする大きな支えとなっているんですけれども、天童市や山辺町のほうでは医療費の無料化を小学生や中学生のほうまで対象拡大して実施しているとお聞きしております。そのようなことを耳にいたしますとやはり、財政力がある町とない町とでは格差が生じてしまっているのかなと思います。支援が充実している市や町への転出のほうも心配されますし、都市部と山間部の格差もますます広がるように懸念されます。県内どこに住んでいても等しく支援を受けられるようにならないでしょうか。吉村知事が「子育てするなら山形県」ということで、いろいろな子育て支援を実施されておられますが、市町村の間でも医療費助成に差がある現状をご理解いただきまして、今後小学生の外来分につきましても県内一律に助成がなされますよう、お願い申し上げたいと思います。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。本当にお子さんを育てておられるといろいろご心配が多々あるかと思えます。先ほどもあさひ保育園を見せていただいた時に、朝日町さん本当に、子育てに力を入れているんだなって事を実感いたしましたけれども、その中の医療と申しますか、そういう点で多々、ご心配な点があるのかなというふうに思っております。山形市また、河北の県立病院とかもありますけれども、県立病院、まず失くさないでそのままということを私、申し上げておりますし、医療、今医師が本当に小児科、産婦人科、本当にこう山形県内全域不足しておりますし、それは全国的な医師不足でありまして、医師確保のために、国を挙げてと申しますか、県を挙げて取り組んでいるところであります。ただ、すぐにはお医者さんは育たないので、順調にいても6年以上はかかるわけですから、もうちょっと時間がかかるのかなというふうに、ご不便をおかけすることも多々あるかなと思って、大変申し訳なく思っているところですが、医療のほうも頑張って取り組んでいきたいと思っております。市町村間でやはりいろいろな違いがあるということも存じております。市町村が就学前の乳幼児および小学生の医療費の自己負担の軽減を行う場合には県はその費用の半額を助成しております、それは県内全ての市町村が実施しているわけですし、多くの市町村で独自の子育て支援策ということを考えております。今、おっしゃったように県内全部がね、平等と申しますか、同じような形で子育てということに力を入れてほしいという声もあるのも承知しておりますが、今のところ、まだそこまでは至ってなくて、まず子育てというものを社会全体で応援しようというような雰囲気を醸成し、それから段々と保育園の助成と申しますか、認可外保育園のほうにも力を入れたりとかですね、それから待機児童の解消というような、いろいろな総合的な取り組みというものを実施しているところでございます。そうですね、今年の7月から県としまし

ては、入院費用の助成対象年齢をこれまでの就学前の幼児から小学校6年生までに拡大したのですけれども、おっしゃるように外来も全てというところにはまだ至っておりませんで、そっちも頑張っていきたいなと思っております。子育てというのはですね、日本全体が今、人口減少というところにもう入ってきておりますので、国全体の課題でありますので、県としても国に対して子どもの医療費助成制度の創設ということについて強く政策提案をしていくという取り組みをしておりますので、しばらくご理解の程お願いしたいなというふうに思っております。朝日町さんの制度といたしますか、そのことについてもお話をいただければと思います。

(朝日町長)

先ほどありましたけれども、朝日町では就学前、学校に上がる前のお子さんについては完全医療費は無料化というふうなことで、何年になりますか、17年の4月からやっております。そして今、知事からもお話がありましたように小学校6年までですね、の入院費につきましては県知事さんが一生懸命頑張っていたいただいているというようなことで、町でもその現在、取り組ませていただいております。で、よろしいですか？ 町でも一生懸命頑張っておりますし、知事からも国全体の問題だと、課題だというふうなこともありますので、総合的に頑張っていかなければいけないかなど、医療費だけでなく、総合的に頑張っていかなければならないというような、今の知事さんのお話にもありましたので、その点にもご理解いただき、「子育てするなら山形県」だというふうな在り方が今後、吉村色を強めて頑張っていただけではないかと思っておりますので、どうかお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。それでは他の方お願いします。

【2 宮宿商店街の活性化について（カラー舗装の要望）】

☆私、宮宿商店街の本町の者です。一人の老人です。地域の問題としてちょっと。商店街づくりのことでちょっと。商店街も低迷の一途をたどっております、これは全国ですけれども。次代を担う次の世代、私は老人ですけれども、跡を継ぐ者に対しての宮宿商店街、知事もご存知だと思いますけれども宮宿商店街。これ、やっぱり整備、商店街の整備ということをやったりソフト面だけでなく、やっぱりハード面ってのが必要なんですね。やっぱり一過性の、やっぱりイベント、それはもちろん必要ですけども、これは跡を継ぐ者に対してちゃんと商店街、整備しないと跡を継ぐ人いない、ということになってきますので、それでは宮宿商店街のカラー舗装を、まあ県民、市町村で商店街のメインストーリーであるカラー舗装になってないのは、宮宿だけだと思います。今は、「なんだ変わったなー」っていうのでないとお客さんもなかなか運んでくれない。やっぱり老人の方だと、やっぱり弁当持ったりなんかして、カラー舗装にでも椅子でもおいで、楽しみながら買い物に来るといような、そいなか今現状ですね。ですので、何とかカラー舗装の実現ということで、やっていただきたいなと思っておるんですけれども、ぜひひとつ実現のほうに

やっただき、ひとつ町長さんはじめ、町長さんも商店街ですけれども、今日も県の課長さんはじめ全部来ておりますのでひとつ、心にさせていただきたいと思っています。よろしくをお願いします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。宮宿の商店街の、商店街づくりと申しますか、今後のことを心配なさっていらっしゃると思うんですけれども、やはり各地の商店街がとも課題だと思います。いろいろ空き店舗が出てきたりですね、後継者がいないとか、様々な課題が山積しているというふうに思っております。宮宿の商店街、昨年です通ったと申しますか、あと選挙の時に通ったとか、そういう感じなんですけれどもね、ゆっくりと来てみたことはないんですけれども、かなりご心配だというふうに思っています。山形の七日町というところがありますけれども、そこもやはりいろいろお客さんが少なくなってきたり、いろんなことが出てきたもんですから、あそこはなんか「紅の蔵」というのを、一般のお家だったところを開放してですね、その蔵で蕎麦屋とかレストランなんかやって、今毎日お客さんがたくさん入ってます。それから、御殿塚っていうところでは町の中だから暗渠にして隠していたんですけれどもそこを開けて、わざわざ開けて、そのところをちょっと昔風の町屋風に建物を変えたりして、その2箇所をなんとなく昔風の町並みにちょっと近づけて、お客さんを呼び込もうとしておりますが、今のところそこへ行くとちょっとほっとするというようなことで、椅子も置いてありますし、流行っておりますね。宮宿もやはりどこもやはり高齢化だったり、あと外の方から観光客にいらしていただいたときに、ほっとしてその座ってそこでくつろいでいただけるような空間ができれば、住んでいる人もいいし、たまに来た人も「ああ、いい所だなあ」と思うと思うんですけれども、まずはその地元の取り組みも大変大事だなあと思います。全国のです商店街活性化に力を尽くしてきた人の話を聞きますとね、その地元でこう、言葉が悪いんだけど、「馬鹿がいる」といって言うんですよ。その、馬鹿みたいに一生懸命になってそれをやるぞっという、ものすごい熱心な人がいると、成功するんだっということを聞きました。そういう若い人といいますかね、もう中年、老年でもかまわないんですけれども、物凄い熱心になるような人が核になると成功するといいますかね、そういう要は人材が大事というふうに街づくりの専門家から聞いたことあるんですけれどもね。本当に、ご心配いろいろあると思うんですが、どういったことをやっていけるのかなというふうに今からちょっと考えたいといいますか、まず、町のほうのお考えもお聞きして、それからどういうことがやっていける可能性があるのか、村山総合支庁のほうからもちょっとお話をというふうに思います。まず町長さん、どうなんですかねえ、地元商店街づくり。

(朝日町長)

はい、今日は知事と語ろうミーティングですので、極力控えようかなというふうに思っておりますが、知事からそういうなお話もありましたので。今、中央通り商店街のほうで一生懸命頑張っていたいただいておりますし、商工会さんのほうとも一生懸命取り組んで、中

心市街地と申しますか、宮宿商店街づくりにも現在頑張っております。宮宿まちづくり推進協議会の地区の区長さんとか役員の方、そしてまた商店街の店主の方々等々に参加していただいて、もう何年かな、平成19年からこの商店街通りをどういうふうにしていこうかというふうなことで、様々な検討をしていただいております。そういった中で、豊龍神社というか、豊龍公園が元左沢高校朝日分校があったところでありますが、その整備からさせていただいて今、町中に山形の「紅の蔵」まではいきませんが、蔵を活用した交流観光の拠点も作らせていただいております。そこに今度、町の観光協会も入っていただいて、交流観光の一つの拠点というような位置づけで取り組んでいこうというふうに思っております。そしてまた、デマンド型の乗り合いタクシーを今年度4月1日から町内全域まではまだ至っておりませんが、西部地域、そしてまたは中部地域で今、運行しております。そういったデマンドタクシー、乗り合いタクシーを利用する方々にも各商店のほうで、非常に来やすい取り組みをしていただきながら、そこで来るときは病院に行くとかそういうふうなことで、来るときはそういうふうな目的で来ていただいて、帰るときは、各々の商店街、スーパーなり、そういうところに寄っていただいて、そこからタクシーに乗っていただいて帰っていただくとか、様々こう、方法があるのじゃないのかなというふうな考え方もしております。町でもいろいろこう、交流観光というふうなことを、これからの産業の、町は、朝日町は農業が基幹産業であります。それとともに交流観光についても力を入れて、産業の活力、拡大に向けて頑張っていきたいというふうなことで取り組んでおります。知事もおっしゃいましたが、地元の方の取り組みが一番だというふうにお話もありましたし、私もその通りだと思っております。それに対するところのハードの面についても、できるかぎり頑張っていきたいと思っておりますが、このカラー舗装まではまだちょっと今のところ、これ県道ですので、県さんと協議させていただきながら頑張っていかなければならないかなというふうな思いもありますので、これから担当の県の皆さんともお話をさせていただきながら、進めさせていただきたいなと思っております。

(産業経済部長)

産業経済部長でございます。ただ今、町長おっしゃられたとおりですね、商店街のことを考える時、やはり地域活性化の中心になるものだなと思っております。そこは観光の側面、あるいはもちろん商業の側面もありまして、私どものメニューとして、観光関係でいろいろお手伝いできることもあれば、また、町づくりのソフトの関係でお手伝いできることもありますので、そこは朝日町さんから、担当の方から充分お話を伺いながらですね、どのようなことができるか充分考えながらやっていければと思います。

(司会)

ありがとうございました。それでは他の方お願いします。

【3 県道白滝宮宿線「道陸の片洞門」の改修について】

☆こんにちは、私は立木の者です。知事の県政は心温まる県政。それに安心、安全をつ

けさせていただいてお願いをしたいと思いますが、よろしいでしょうか。それではお願いいたします。私のところは県道宮宿白滝線の約3分の1ぐらいのところにあります、立木部落でございますが、それより約1kmほど手前に「道陸」と書いて「どうろく」と読んでいるところがございますが、そこは昔から土砂崩れ、雪崩れが起きる場所としてけもの道すらないところでございますが、林道ができて何とか通れるようにはなりました。しかし、以前から土砂崩れがありますんで、なかなか安心して通れる場所ではなかったんですが、県道になりまして、スノーシェッドをつけていただきました。お陰で夏と冬、それほど怖くなく通れるようになったんですが、ただ、だいぶ昔のことでございますので、道幅が狭くてですね、大きいトラック、あるいはバスとか通った時に普通車と交互というか、すれ違うことさえできないような細い道路でございます。また、崖崩れの場所でございますので、上から崩れ落ちた土砂と一緒に雨水とか落ちてきますんで、冬などは特に雨水が下の道路に入りまして、道路の脇を凍らせて滑るような状態になります。もし、そこを歩いている人が通った場合に、車が来たりしますと走ってそのトンネルから出るか、あるいは危険を冒してその氷のうえを上がってガードレールにしがみつくなければならないような状態で、また、上から常に水が落ちてくるものですから、大きな氷柱ができて、これが中に入って道路をふさいでしまうというふうなことも何度かございます。そんなことで、われわれ毎日通る者として非常にヒヤヒヤ、ドキドキというふうな形でそこを通らなければならないような状況にあります。また、天井が低いためにですね、大型バス、今の天井の高い大型バスは通れません。また大型重機を積んだトレーラーなども通ることはできないようです。ですから、白倉に朝日町で財産を投じまして「Asahi自然観」を造っていただいたわけですが、そこに世界でも珍しい空気神社があるわけです。ところが観光として大きなバスも来たんですが、そこは通れないというふうなことでそこから引き返していった経緯がありますが、そんな点で、なんとか我々のその空気神社を県内外だけでなくですね、世界中からお客さんと呼べるような素晴らしい神社じゃないかなというふうに思っておるんですが、なんせ、そういったことで観光バスすら通れない状況にあります。また、崖崩れ等だけでなくですね、冬などは雪崩れが起きて、トンネルの出入り口をふさいでしまうというふうなことも一冬に何度かございます。今年なんかは大きな木の根が道路の真ん中まで転がってきて、まあ、常盤の駐在さんがどかしてくれたというふうなこともございますので、そのような点からわれわれは非常に毎日通る度に、あるいはそこだけしか通る道がないものですから、大雨が降ったりあるいは台風、それから地震などが起きる度にですね、「あそこが崩れてこないもんか」あるいは「土砂崩れがないか」そんな毎日を過ごしております。そういったことで我々、十数年前からなんとかこの道路、改良して欲しいと、改善して欲しいというふうなことで申し上げているんですが、なにせ予算がないというふうなことで、今までなかなか進んでおりません。ですからなんとか知事の力によりましてわれわれの気持ちを汲んでいただいて温かな心を持っていただいて、安心、安全をさせていただきたいと、一日でも早く我々の安堵し

た気持ちで生活できるようにご協力お願いできれば幸いと存じますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【4 県道289号線の未舗装部分の改修について】

☆関連していいですか。その立木のさらに奥の朝日鉱泉というところの者です。お話をあつたその県道 289 号線ですね。宮宿から白滝に関することなんですけれども、Asahi 自然観ですとか空気神社といった町の一つの観光のスポットに通じる道でもあり同時にもう一つですね、忘れてはならない磐梯朝日国立公園に続く道という形でも朝日町からの主要道路っていうことで位置づけられていると思ひます。やはり、国立公園に指定されるほどの豊かな、美しい自然が残っているおところですので、知事もご存知かどうかですけれども、広大なブナの原生林というのは「21 世紀に残したい自然百選」にも選ばれてますし、最近で言えば「森の巨人たち百選」というので日本一のクロベの巨木というのにも注目を浴びています。やっぱりそういったスポットもあつると。そしてやはり、忘れてはならないのが町の名前にもなつている朝日岳ですね、朝日連峰の主峰の大朝日岳っていうのは日本百名山に入つていますので、毎年全国からたくさんの登山というか、山登りの方たちが訪れています。やはり町のつてか、地元の方にとつても山形県でも 1、2 を争う清流というか、朝日川での遊びでしたり、春には山菜、秋にはきのこといった山の恵みを楽しんだり、釣るっていう意味でも非常に貴重な場所だと思ひますね。朝日国立公園っていうのは。そこに行くまでの道がですね、やはりまだ舗装されていない部分も多数残つてますし、凄く狭いというのもありまして、観光ですとか、登山に来た方からは「非常に道が悪い」と、「もう二度と通りたくない」なんていうような話もよく聞きます。やはりこれから先のことを考えた時に先ほど、町長さんもおっしゃいましたが、町の中で観光という位置づけ、観光資源っていう意味でも磐梯朝日国立公園っていうのは無視はできないんじゃないかなと思ひますし、ぜひともそこに続く道、アクセスの面で、せめて舗装されていない部分の整備というのだけでもなんとか考えていただけないかというふうに思ひます。先ほどともちろん、セットになるかと思ひますけど、そのちょっと先のところの道までもぜひ考えていただけたらなと思ひます。

(知事)

はい、お二方どうもありがとうございました。県道の整備というのは本当に、全県内から希望が寄せられておまして、もちろん県民の皆さんの安全、安心確保のために緊急性などを考慮して、また地元からも優先順位というふうなものまでお聞きしたりしながら、実施しているところなんです。本当にその、道陸というところですか、そのトンネルや橋などの整備ということでありまして、またただ今のその先のほうも整備してくれというふうなお話だつたと思ひますが、朝日鉱泉ですね、はい。私中学の時に親から連れられていった覚えがありまして、その時は混浴だつたんですね。で、入つたら途中でいろんな人が入つてきて、もう上がれなくなつたって、その凄く辛かつたことを今、こうなんか、

お湯でおかしくなってしまったようなそういうことがあったなって今、思い出して大変懐かしいんですけども、非常に秋の景色が素晴らしくいいところですね。大人になってから家族全員で紅葉狩りなど行った覚えがあります。冬もそこ閉ざしているんですよ、あまりにも山奥でね。だけでも本当に春から秋にかけては絶景といいますか、素晴らしい景色のところだなんていうふうに思っております。地形が大変に急峻だっというふうにお話のあった箇所については聞いてはいるんですがね、その前にね、道路の整備ということにつきましては、実は朝日町さんはね、結構、県のほうでたくさんのお金を使って、予算的に結構、力を入れさせていただいております。びっくりするぐらい、ちょっと公表できない。力のある議員さんとですね、それから町長さんといらっしゃいますので、そういうことになっているのかなと思うんですが、やはり地元のその優先順位というようなこと、ご相談させていただきながらやっていかなければならないことだなんていうふうに思っておりますが、その要望について総合支庁のほうから説明してください。

(建設部長)

建設部長です。私のほうからご説明させていただきます。スノーシェッドにつきましてはご説明させていただきますと、昭和**45**年に作られたものでございまして長さ**111**m、幅**4.5**m、高さが**4**mとってなっています。ちょうど真ん中あたりはカーブなんかもございまして、確かにカーブのところで車が、両方から車が来て、そこですれ違うことがなかなか難儀なような感じになってます。そんなこともございまして、平成**17**年にスノーシェッドの両側のほうの出入りに「対向車注意」のサインもさせていただいて、中ですれ違わなくても済むようなこともさせていただいているところです。先ほど来、町民の方々からお話しありましたように、この先の白倉、立木、曲淵というような集落もございまして、それから先ほどからでますこのホテル、コテージ、それからスキー場を備えた**Asahi**自然観などもございまして、朝日鉱泉、それから朝日連峰の登山口となっております。そんなことで、いずれ整備の必要はあるものと思っております。そんなことではございまして、先ほど来ありましたように、そのスノーシェッド部分につきましては、片側が急峻な山になっておりまして、片側は川になってるというようなこともございまして、なかなか抜本的な対策には相当の事業費が、お金がかかるのかなと思っております。それでもやはり安全性の確保は重要なことではございまして、例えば、今、現地の、雪のためのスノーシェッドというんですが、そのスノーシェッドの上に土などもだいぶ、上の方から落ちて溜まっています。そんなものをとったり、スノーシェッドの上に石なんかも、浮石みたいなものもございまして、そういったものをとったりしながらですね、安全を配慮しながら、安全を確保しながら、道路のパトロールをしながら対応して、もう少しお使いたいと思っております。それから、その先の未改良の舗装のところですが、国立公園にもなっていることもございまして、なかなかまだまだ未整備な、舗装もしてない場所もかなりございまして、危険なところについて個別的に対応するようなことは可能かもしれませんが、なかなか奥の方まで全面的に舗装することも今の段階では厳しいの

かと思っているところでございます。そういうことでよろしくお願ひしたいと思ひます。

☆今、県のほうからご説明、ありましたんですが、やはり私たちは毎日そこを通らなければならぬ場所ですので、やはり気持ちがどうしても上を見たり、あるいは前のほうを見たりというようなことで、危険性もありますので、そういう点をできるだけ早く改修していただきたい。そんな気持ちでございまして、よろしくお願ひしたい。

(司会)

ありがとうございました。それでは他の方お願ひします。

【5 特別支援学校のスクールバス運行について】

☆新米で勉強中の教育委員をしています。知事さんとお会いいたしまして、まさに「山形の母」というような温かい印象を受けまして、大変嬉しく思っております。今日は教育委員ということから、特別支援学校へのスクールバス運行についてちょっとお話をしてみたいと思ひます。近年、重度の知的障がい者や、障がい、ダウン症とか情緒障がい、自閉症などを持つ子どもさんが大変増えております。今までですと、この地区は米沢とか新庄の養護学校で寄宿舎生活を余儀なくされていたということです。地域から、それから家庭から学校に通学できる学校と要望いたしまして、山形市に「村山特別支援学校」が設立されました。大変喜ばしいことです。ですが、朝日町から学校への送り迎えは当然保護者がやっております。約1時間近くかかります。朝は9時まで、迎えは2時までということで仕事にも就けないということです。肉体的、精神的、経済的にも大変負担がかかり、計り知れないものがあるかと思ひます。そこで支援学校へのスクールバスがあれば、どんなにか保護者の負担が少なくなるのかなという思いでいっぱいです。ここで送り迎えをなさっている父兄のお母さんからちょっとお手紙をいただいておりますので、少し読ませさせていただきたいと思ひます。「学校生活とか家庭での生活で大変良かったこと。専門の先生ばかりなので、安心して預けられる。一つ一つの接し方が丁寧。学校が遠いにもかかわらず、毎日喜んで通っている。表現が豊かになり、コミュニケーションが以前よりずっと取りやすくなった」など大変嬉しい話です。それから、行政への要望ということなんです。が、「一番は送迎サービスの実施」をお願ひしたいということです。今後、送迎サービスがあることにより、支援学校の通学が可能になり、さらに充実した指導を受けられる子どもたちが増えること、家族の負担の軽減と、ぜひ、考えていただきたいというようにお手紙です。このようなお手紙もありましたので、ぜひですね、大江町、朝日町、山辺とか、そういう路線に関わってスクールバスの運行をなんとか検討していただきたいというふうな思いでいっぱいです。最後になりますけれども、朝日町では現在2名の方が支援学校に行っております。保護者の負担をなるべく軽くできるようにと町では就学援助をしていただけることになっております。援助費は両親の収入に応じてということです。保護者の方も

とっても感謝しているところです。このように就学援助をする市町村は県、または全国でもないとのことで、これは全国に誇れることと思っております。このことについては町長の広い心に感謝でいっぱいです。どうかよろしく、ご検討お願いいたします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。教育委員のお仕事、熱心にやっていただいて本当にありがとうございます。県内の特別支援学校では、通学用のスクールバスというのは原則として運行はしておりませんで、保護者の方からの送迎、それから公共交通機関を利用して通学いただいているというのが現状でございます。また、登下校に要する時間的負担が大きい児童生徒の皆さんや、障がいのため通学が困難な児童生徒の方々に対しまして、一部の特別支援学校を除いて寄宿舎を準備して、通学の負担の解消というものを図っております。障がいを持つ児童生徒の皆さんにとって、寄宿がいいのか、あるいは通学がいいのか、また通学する場合、どのような通学手段がいいのかということは、児童生徒の障がいの状態、それからご家庭の状況などによりまして異なっているために、一応それぞれの状況をお聞きして町の教育委員会と相談の上、個別に対処しているということでもあります。今のお話しですと、朝は9時まで、迎えは2時まで行かなきゃいけないとかですね、一日中やはり、かかりきりでいなきゃいけないので、お仕事をできないという状況ということでもあります。本当に大変だなと思います。近年ではですね、そういう保護者の方をサポートするようなボランティアといいますか、あの福祉有償運送制度、全くの無償ではなくてですね、**NPO**とかですね、少しお支払いして、そこのところを毎日でなくてもね、週何回でも例えばなんですが、ちょっとイメージ的には介護サービスみたいなものをちょっと思い浮かべていただければと思いますが、そういう形でその、ご家族をサポートするというようなことが、他の地域ではできつつあるということも聞いております。そういうようなことが早く広まればいいなと今、お聞きしていて思ったんですけれどもね、詳しくは教育事務所のほうでちょっと説明をお願いいたします。

(教育事務所長)

村山教育事務所長です。よろしく申し上げます。特別支援学校のスクールバスについては先ほど知事の説明にありましたとおり、通学範囲がそれぞれに広範囲になるために、原則として運用しておりません。ただ特例として運用しているのが上山市にあります、山形県立ゆきわり養護学校1校のみであります。これは車椅子使用の児童生徒が大変多いために、障がいに配慮した特例であります。しかも山形市の村山総合支庁から学校までの往復ということで、村山総合支庁まではそれぞれのご家庭で送迎いただいている実態であります。従って保護者の方々には同じように、大変ご協力をいただいているところであります。そんな保護者の方々のご負担を少しでも軽減するために、就学奨励費による通学支援の制度がございます。これは公共交通機関の定期代や送迎のためのガソリン代を補助するものであります。もちろん、充分とはいえませんが、ご理解よろしく申し上げます。なお、いただきましたご意見については大きな課題の一つとして引き続き検討を重ねてまいりた

いと思います。貴重なご意見、ありがとうございました。

☆将来に向けて、よろしく願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。それでは他の方お願いします。

【6 高校再編について】

【7 県道左沢浮島線の改良について】

☆知事ご苦勞様です。私、大暮山の町会議員をしております。知事に、2点お伺いしたいんですけども、1点ずつまずお伺いしたいと思います。一つ目は山形県内の高校の再編問題ですけども、寒河江西村山管内には4校の高等学校があるわけですけども、今年度から高校の授業料無償化ってことで、高校も義務教育の一つになってくるんじゃないかなって気がするんですけども、知事は前に県の教育委員もなさっていて、小学校、中学校の少人数学級という大変本当に、大変素晴らしいことを実現してくださいましたけれども、この今の高校の再編のあり方を、これをどういうふうに知事はお考えになっているのか、その辺を具体的にお伺いできればと思います。この前、説明があったときには、キャンパス制方式とか、ちょっとなかなか理解できないような説明もあったわけですけども、その辺、知事から直接お伺いできればと思います。まず1点目、これをお願いします。

(知事)

はい、教育、人づくりって本当に大事なことでありますので、少人数学級を中学校3年生まで実施してまいる所存でありまして、今年は中学2年まで、来年度が中学3年生まで実施ということでやっております。高校の再編のことをお尋ねなんですけれども、それまでは私が教育委員の頃もそうですし、これまでですね、やはりある規定路線がありまして、「再編ありき」だったんですね。やはりコストがかかるというようなことが大きかったわけでありまして。非常に細かいところまでは覚えていませんけれども、段々とかく高校はなくなっていくというような決まりきった路線がありました。ただ、私が就任いたしましたからは、その「再編ありき」という考え方ではなく、やはりその学校というのがその地域のシンボルといいますかね、そこに若者がいるというだけでなんか地域が明るくなったり、活性化の中心だったりね、いろんなことがあるもんですから、地元とやはりいろいろ相談をしながら、ご意見伺いながら、やったほうがいいんじゃないかって私はね、小規模であってもね、存続したいねみたいなそういう、本音を言ってしまえばね、そういう気持ちで言っているわけでございます。ただ教育委員会というのは独立行政委員会でありまして、知事部局とは違います。教育に関してはやはり中立の立場で、将来までしっかり考えながら、教育委員会独自で人事も、それからそういういろんな制度もやっております。ただ、私の考えというのもありますので、今お話の村山地区の高校ですね、残念ながら朝日町のはなくなってしまいましたけれども、他の高校も人口、生徒の減少というところが見

えているわけでありまして。どういうふうにしていくんだということになっておりまして、そこは委員会というものを作りまして、県民の皆さんのご意見を聞きながら、お聞きしながら進めていくと聞いております。そして今、キャンパス制ということが出てきましたけれども、一つの高校が生徒が少なくなったから失くすということではなく、例えば二つの高校をね、あるいは三つの高校で、そのまあ、なんて言うんだらうねえ、失くさないでお互いに共有しあいながら、例えば音楽の先生は一つの **A** という高校にいるけれども、**B** という高校に週に何回か行くとかですね、そういういろんな柔軟な制度として両方とも存続するような、その地域、その地域に存続できるような形でね、やっていけるんじゃないかというような方向で検討がされているのかなというふうにお聞きしているところですけども、なお詳しいところというのを教育事務所のほうでちょっと説明してもらえますか。

(教育事務所長)

教育事務所長です。今、知事の説明にありました西村山地区の高校再編については、平成 **20** 年から検討委員会が立ち上がりまして、これまで **5** 回委員会を開催してまいりました。4 回目のあとに中間まとめということで、地域説明会をそれぞれさせていただきました。そのあと再度、検討委員会が開催され、**22** 年の **3** 月に報告書が出されました。内容について、今キャンパス制というお話がありましたけれども、現在、**4** 校あるわけですが、それを **3** 校に再編をして、そのキャンパス制による連携をはかっていくというのが一つの案です。もう一つが **2** 校に再編する案ですが、その **2** 校の場合でもそれぞれ **4** つの校舎を活かしながら、教員が出張授業を行ったり、部活動を一緒に実施していくもので **2** 月に出了た報告書に基づいて、今後は再編整備計画を策定していく段取りになっております。その中でまた、地域の皆さまからご意見を伺って検討してまいります。よろしく願いいたします。

☆はい、わかりました。また、先ほど知事のほうからもありましたけれども、朝日分校がなくなって本当に、子どもたちがいなくなってきているので、学校がなくなるというのは、そういうのは理解できるんですけども、やっぱり高校がなくなってるから地元に残らない、そういった悪循環的な面も出てきますんで、できるだけやっぱり近くに高校があればというような気持ちが大きくありますので、まあ大学ですとこれは本当に、自分が進んで行くところなんで、大学ともまた違う、高校というのはこれから義務教育の中の一つみたいな感じになってくるというところで、少しでも近いところがあればというような気がしますので、とにかく知事の出身地であります大江町の左沢高校、これを是が非でも残していただきたいというのが、気持ちが本当に一番強いところでもあります。2 点目に移らさせていただきますけれども、国の名勝になっております、大沼の浮島があるわけですけども、そこまで行く道路、県道左沢浮島線ですけども、参議院議員の岸先生、**3** 年ぐらい前ですか、来ていただいたんですけども、金山町出身の岸先生が、「山形県内の県道でこんな道路もあるのか」というふうに言った道路なんですけれども、今あの、去年か

ら待避所設置ということでまたあの、部分を拡げていただいて道路広くしていただいておりますけれども、今年度もやっていただきますけれども、まだその待避所も設置できないような狭いところもあるわけです。やっぱり国の名勝の大沼の浮島というのは大変素晴らしいところありますので、そして毎日あの、子どもたちのスクールバスでマイクロバスで、小学校、中学校に通学しているわけなんですけれども、やっぱり保護者の方が大変、毎日心配なわけです。そういう面も解消していただけるように県道左沢浮島線、今いろいろ工事やっていただいておりますけれども、待避所も設置できないような場所を、それをこれからなんとか改良お願いしたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひします。

(知事)

はい、ありがとうございます。大沼の浮島ですね。はい、私も何度か行ったことがあります。隣の大江町でしたので、松保の杉を見に行ったりですね、大沼の浮島を見に行って、動くところ見たいなあと思ったけど、動くのは見たことがないですけどね、はい。本当に金山町の岸先生が驚くほど、酷い道なんですよね。先ほどの道陸のトンネルもあるし、それからその先の朝日鉱泉までの道路もあるし、朝日町道路いっぱいなんか、直さなきゃいけないところいっぱいあって、でもその他のところいっぱい県でやってるんですよ、本当に。かなりなところ、朝日町さんに予算つぎ込こんでいるんです。本当に。あの、まあでも本当に今、今日ご要望いただいたわけでございます、町長さんとか地元の方々でご相談および優先順位とかもやはりないとね、いちどきに全部3つやれっていうことは、絶対それ難しいですし、ご相談させていただきながら進めさせていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(司会)

ありがとうございます。それでは他の方お願ひします。

【8 おいしい山形プラザの収益について】

【9 知事から見た朝日町の印象について】

【10 知事がいつも輝いている秘訣について】

☆朝日町、常盤の者です。知事さん、こんにちは。今日は三つのことをお話したいです。一つは、今日の資料にも写真が出ておりましたちょうどいいなと思ひました。「第三次山形県総合発展計画」の8ページに写真が載っております。先日私は、東京銀座の山形県アンテナショップおいしい山形プラザの山形サンダンドロでいただいてまいりました。とても山形の野菜を主にしたイタリアンでしたけれども、おいしゅうございました。でもこんなふうに畑、我が家の畑のまわりのものをこんな高い値段で銀座で食べられるんだなんて思ひて、びっくりしてきたんですけど、4月20日のテレビでした。知事さんニコニコって、3億8,000万が大幅に売上増加で4億円突破しましたってなんか、ニコニコ顔で出

ておりましたけれども、その利益って1億いくらどういうふうに使われているんですか。そのことひとつお聞きしたいです。あともう一つはですね、将棋とか麻雀なんかも外で見ている人のほうがこう、よく見えるってことがありますけれども、朝日町を知事さんは全国、ロシアまでも行かれてこう、いろいろな土地を見て回られるわけなんですけれども、知事さんからみた朝日町ってこの、将来性、展望、方向性みたいなはどんなことをお感じになっていってらっしゃるのかなってこと、二つ。もう一つは今日もとっても素敵な瑠璃色のファッションですけれども、いつもテレビで、すごくいつも輝いていらっしゃるから、なんかこの秘訣があるのかなと思って、一つお聞きしたかったんです。この三つ、よろしく願いいたします。

(知事)

はい、ありがとうございます。まず、その「おいしい山形プラザ」でしたかね、はい。今年の4月30日で丸一周年になりましたので、イベント行ってまいりまして、ウド鈴木さんと佐藤唯ちゃん。佐藤唯ちゃんていうのは寒河江出身で「なまドル」と言われて若い人には人気です。「なまっているアイドル」それを縮めて「なまドル」ということで、「なまドル」として大変人気があります。「私、大江町だぜえ」とか言ったら「えーっ」とか言って、二人で盛り上がったんですけれども、ウドちゃんは庄内出身であります。そのようなことでオープン1年を迎えまして、来場者数が概数で63万人、売上金が4億900万円余りという発表させていただいたところでした。この売上げをどのように使っているかということですが、県に入ってくるわけではありませんで、やはりそこにお店を出している方々に入るわけであります。そのうちのほんの少しが県に入ってくるんだっただか、あとでちょっと産業経済部に聞いてみたいなと思っておりますけれども、あそこの家賃は県で払っているだけけれども、お店の方々に県内の、たくさんのお店の方々にだして、出品していただいて、その売上げをそっちの方に多分入っていて、県の方にほんの少し入っているのかなということでもあります。もう一つ朝日町の印象ですけれども、私がみると何ていうかまずリンゴの町ですね。本当に、朝日町ってイコール、リンゴみたいにずうっと私は思っております、どこをみてもリンゴの花だらけでこんなに素晴らしいリンゴがあるところは他にないと思います。ですからその、リンゴづくしでいろいろ発展していけるんじゃないかなんてと思うくらいなんです。昨年、中国に行って、それから今年ソウル行って、ロシア行って来ましたが、朝日町のリンゴみたいな立派なリンゴ見たことありません。どこもちいちゃい、このくらいのリンゴでね、それに比べたらもう、芸術品だと思います。県内でも朝日町のリンゴは美味しいということでも有名です。私の知ってる農業者から聞いたんですけれども、それは例えば和合平であれば、「あそこは土が粘土質だから、その雨が降っても美味しさ、糖分というものが流れないで、そこ粘土のところ止まるから、だからあそこのリンゴは美味しいんだ」って話を聞いたことがあるんですけれどもね。はあ、それが秘密だったかと思ったわけではありますが、リンゴ。最近はでも朝日町ワインというのも有名になってきています。それから、意外と静かなブームでその樞平の棚田と

いうのもブームを呼びつつあるなあという感じがしております。あと、案外知られていないのが松保の杉とか、大沼の浮島ですよ。それから今日のお昼にちょっとリンゴ温泉のところでお昼を食べてきたんですけれども、ダチョウのお肉、大変美味しかったです。クセがなくてね、美味しかったです、大変残念ながら、あんまり知られていないかなと思います。で、町長さんと話したんですけれども、「これ、アンテナショップの奥田さんのところでもちょっとねえ、使ってもらったらいいんじゃないの」みたいなことを私はちらっと言ってしまいました。あの、そういうことで朝日町のものがいろいろ発信できたらいいなと思います。今年の10月でしたか、リンゴの出荷で朝日町に私、参りまして、その帰りにワイン城に寄りましてね。ワインのブドウ畑でブドウを摘んでそこでワイン作ってもらえるんだ、なんていうことも聞きましたので、すごいところだなと思いました。朝日町ってところは可能性は限りなくあると思います。観光もそうだし、農林水産業もそうだしね。皆さんは気づいていらっしゃるけど、ものすごい資源があるところじゃないかなってというのが私の印象であります。それから三つ目、服ですか。いやあ、服はよっく聞かれるんだけど。

☆今日のお色もそうですけれども、いつもね、こう輝いてニコニコしてらっしゃるけれどもなんか、どういうもの食べて、どういう健康づくりしてらっしゃるのかなと思って、すごく関心があります。

(知事)

いやあ、ありがとうございます。いやあ、あの、結構塗りたくっていますね。シミやそばかすが見えないように塗ってるんで、例えば今、妖怪が流行っているそうではありますが、「ゲゲゲの女房」のおかげですね。自分を妖怪の何に例えるかっていったら、私だったら「ぬりかべ」だなんて。私なら思うんですけれども、化粧落とした顔は見られないよという、だから取材に来られた時も、朝のご飯作りのときから入られたんです、台所に。「ちょっとスッピンだから映さないでね、顔だけは」ということで、手元ばかり映してもらったこと覚えがありますけどね。あの私は昔からその、「心の美人」っていうのが一番だっていうことを親から言われておまして、容色というようなものは衰えるけれども、その、心の美人というのはいつまでも変わらないよってことで、なるべく笑ったりですね、できるだけ人の気持ちを思いやったりとか、そういうふうにしなさいと言われてたし、それが本当にできているかどうか自分でもちょっと不安でありますけれども、物事、できるだけ前向きに、明るく捉えるようにしています。選挙の時も、選挙事務所で、「明るくいきましょーっ」って毎日言っていた覚えがあります。あの、まあ、選挙活動にしてもあるいは知事になってからにしても、うちの88歳、今年6月で89歳になる吉村の父がいるんですが、なんていうかな、「楽しんでやれ」というふうにはアドバイスしてくれます。で、今年で82歳になる吉村の母なんですけれども、県議会が始まりますと、大変厳しい時期がございましたね。そうすると、うちの母はですね、朝、家を出るときに、「叩かれれば叩かれるほど

強くなる美栄子さんだ」とかって言って送り出してくれるんですね。そういうだから家族の愛情といいますか、団結力といいますか、そういうサポートをしてくれる人たちがいっぱいいるんですよ。服についてもそうです。同級生からね、「あの時のあのスーツに黒い靴下は似合わないからやめろ」とかですね、いろいろこうアドバイスくれるんですよ。皆、見守ってくれてるんだなという事で大変ありがたく思っている。本当に皆さんのお陰で、毎日私は頑張ってるんだなという事で大変ありがたく思っている。本当に皆さんのお陰で、毎日私は頑張ってるんだなという事で、毎日ありがたいなという思いで頑張っております。そういうことでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

(産業経済部長)

産業経済部長です。さきほどのアンテナショップ、知事から申し上げましたとおり、4億900万円の売上げ、これが県に入ってくるということではございませんで、生産者の方、あるいは販売される方にこのお金は入っています。ただ、飲食と物販とに分かれますけれども、それぞれの料率で何ていいますか、家賃といいますが、売上げの数パーセントですけれども、それをいただくことにしております。このアンテナショップやはりその、アンテナショップということは県の施策としてやっております。それをそこで知っていたで、買っていただく、そして来ていただくということで県が用意したところで市町村の方とか、あるいは生産者の方が、そこを使ってアンテナ機能を十分に活用してもらおうという側面がありまして、市町村のイベントなんかでも去年の場合ですと70回ほど活用していただいております。県の方にいただいたその料金の部分については、そういうことでアンテナショップの運営管理費などにあてさせて使わせていただいているということでございます。

(司会)

ありがとうございました。それでは他の方お願いします。

【11 りんご新品種「ファーストレディ」のトップセールスについて】

【12 りんご新品種「ファーストレディ」の許諾（育成者）権について】

【13 山形セレクションについて】

☆リンゴのアドバイザーをしております。リンゴについて2、3点お伺いしたいと思います。今、山形県で開発しました、今の知事にぴったりの名前「ファーストレディ」という品種が開発されました。その中で今、山形県の現地試験ということで、19の方がそのリンゴに取り組んでおります。その中で出てきた課題をちょっと2、3点お伺いしたいと思います。第1点は今年、山形県内で農協が去年の秋からこの春にかけてこの品種を農家に苗木販売したわけですけれども、実際売り上げた本数が8,000本という形になっております。その中でとてもじゃないが産地化とか、一つの産業を起こすことは無理だってことはわかるわけですけどねえ。できれば抱えすぎでは山形県全体見ましても、新しい品種の抱えこみっていうのは多いっていう感じがあるってことで皆さんの話の中で、とにかくこの品種を全国のりんご生産者の皆さんから作ってもらって、それを皆さんから日本中の

消費者から消費していただきたいと。こういう方向でひとつ進めるわけにはいかないかなってことで、一応この中で許諾（育成者）権とって山形県が権利をもっている、権利がございます。それは山形県がいつから県外作付を解禁しますよっていつもらうと県外作付可能になるわけですので、とにかく早めに県外作付を解禁してもらいたい。各産地ともいろんな品種開発しておりますので。やっぱりこの品種は「つがる」に代わる品種だといわれている早生の品種なんですけれども、これに全国の生産者が期待しているところです。ですから、まずこれをひとつお願いしたいと。あともう1点は、今**19**人で昨年、はじめて試験販売をしております。来年度が本格的な売りに入るということで、来年度8月末になろうかと思っておりますけども、知事も一緒に行っていただきまして、「ファーストレディ」をトップセールスを是非お願いしたい。これが県内の代表者のご意見です。これは試験場の方々も普及所の方も知っているはずですので、是非これを実行していただきたい。あと、もう1点はブランド化でアンテナショップとかいろいろあったわけなんですけれども、あの数年前に山形セレクションであったわけなんですけれども、どうも動きがはっきり見えない状況の中で、今後山形のブランドとして、いろんな素晴らしい産物があるわけなんですけれども、その辺をどう考えておらっしゃられるかなと。この**3**点をご質問いたします。

（知事）

はい、ありがとうございます。まず第1点目ですね。県の品種で「ファーストレディ」おっしゃいましたけれども、それと「秋陽」ですね。昨年、私出荷式にまいりましたけれども、この二つは県で開発しまして、期待の品種ということでやっております。そもそも山形県というのは本当に果樹の生産が盛んでありまして、さくらんぼ、ラ・フランスはとにかく日本一であります。さくらんぼ、ブドウ、その次がリンゴ。県ではリンゴが第3位というぐらい主力なのでありますね。リンゴのアドバイザーの方だから、私よりもずっと詳しいので、逆に教えてほしいぐらいのところもあるわけでありまして、販売促進につきましては、県と農業団体とで構成する「おいしい山形推進機構」が推進母体となって、県産農産物の販売促進を展開しているところですね。リンゴを含め、農産物を紹介するようなパンフレット作成、配布とか様々なイベント、**PR**を行っておりますし、引き続きそれは実施してまいります。トップセールスをということでありましたので、トップセールスはできるだけ私が先頭を立ててやりたいという思いもあるし、そうですね、県といろいろ検討しながらやってまいりたいというふうに思っております。ブランド、セレクションのお話なんですけれども、「山形セレクション」制度の見直しにつきましては、昨年度**11**月に有識者で構成する「山形セレクション会議」が行われております。そこにおきまして、効果的な**PR**や品質管理などの面で民間の力を活用した制度、運用に移行していくべきだとの方向性が示されたわけでありまして、これを受けまして、農林水産分野で「おいしい山形推進機構」をセレクションの認定機関として3月末に県が指定しました。今後、おいしい山形推進機構で事業者の認定、それから生産、出荷体制の検査などを行っていくこととしております。その中で品質が確かなものが出荷されているか、流通している商品も確認し

ていくこととしております。この他、ブランド化を進めるための品目の追加、それから品質基準の在り方につきましては、生産者の皆さんからのご意見やご要望をお聞きしながら、今後検討してまいることとしております。首都圏などの青果店などにもご協力いただきまして、年間を通じて県産農産物をPRしていく、ということにも取り組んでおります。関係団体と協力しながら、県産農産物のブランド化を努めてまいりたいと考えております。山形セレクションも、県産農産物のブランド化を図っていくため、一つの手段として位置づけておりまして、セレクションを含めた総合的なブランド化戦略を推進することで山形県の知名度を高め、県産農産物全体の底上げを図ってまいりたいと考えております。

☆先ほど言いました、許諾（育成者）権の問題ですけれども、多分苗木の権利というのは県で持っているはずなんです。ですからその苗木を例えば「ふじ」とか「つがる」に例えた場合に、なぜ、「ふじ」や「つがる」がこれほど世界の「ふじ」になったのかってというのは、それだけ全国に回したからですよ。やっぱり消費者にもいっぱいまわるわけで、いつまでも囲ってるとタイミングがあるので、どのへんにこう何年間と期間もあるかと思えますけれども、どの辺に解禁ができるのかってのは、全国の生産者が待っております。やっぱりそれだけ期待されているうちに撒いてしまわないと、時期外れで駄目になることで。あと、もう1点はいろいろこの「ファーストレディ」に関しましても朝日町では苗木に1本1,000円ずつっていうことでいろんな補助をして、朝日町の生産者は「秋陽」と「ファーストレディ」につきましてはかなりな面積で皆さん頑張っておりますので、これからもいろいろなお支援、PR等お願いしたいと思えます。

（知事）

わかりました、ありがとうございます。今、本当に貴重なご意見をいただいたと思っております。その、苗木の権利をね、やはり全国にというようなことも含めまして、持ち帰って検討させていただきたいというふうに思えます。ありがとうございます。

（司会）

ありがとうございました。それでは他の方お願いします。

【14 広域的観光バックアップについて】

☆私、朝日町観光協会の会長です。よろしく申し上げます。朝日町では平成20年3月に第5次総合発展計画を策定し、いつの時代も自信と誇りを持ち、住みたい、ずっと住み続けたい魅力ある町づくりを目指しておりますが、地域活性化のためには観光と交流が重要なポイントになっております。特に観光の取り組みについては一つの町だけでは限界があり、朝日町でも平成20年から白鷹、朝日、大江の3町による観光協議会を組織し、様々な取り組みを行っており、交流人口の増加に大きな効果が出ているところでございます。今後とも様々な意味で広域的な取り組みをし、もっと推進していく必要があると考えており

ます。このたび5月7日ですけれども、7市7町による村山地域の「めでためた花のやまがた観光圏」が国土交通省観光庁により認定を受けましたが、村山地域の観光圏構想の実現を含めまして、強力な県のバックアップをお願いしたいと思っております。知事のお考えをお伺いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(知事)

はい、ありがとうございます。観光立国ということで国のほうも、観光庁というものを作りましてね、頑張っております。わが県も観光立県ということも一つの目標に掲げておりまして今年の4月1日からですね、観光交流局というものを新設いたしまして、全力で取り組むこととしております。幸先のいいことに今おっしゃってくださった、その「めでためた花のやまがた観光圏」というものが認定されました。これはあとで総合支庁のほうから詳しく話してもらおうかと思えますけれども、本当に山形広域観光協議会と連携しながら、その推進についてバックアップを行っていきたいと思っておりますというか、いまの結論でありますけれども、山形県は本当に観光資源が豊富だと思います。確かにハルピン行ったり、ソウル行ったり、モスクワ行ったり、ウラジオストック行ったりして思ったことは、この日本という国は、特に山形県というところはですね、緑の豊かな本当に食べ物もおいしい、素晴らしいところだということでもあります。山もあれば海もあります。庄内のほうに海はありますから、そして映画が撮影されるほど景観の美しいところでもあります。県土の7割が森林で、空気が澄んでいて水もおいしくて、昼と夜の温度の差がハッキリして大きい、そして四季がハッキリしている。そういうところだからこそ、おいしいものがたくさんできるんだということ、私はことあるごとにPRしてございまして、その観光、ぜひとも力を入れていきたいと思っております。広域観光というのを本当に町、その点だけじゃなくてやはり、こう繋いだ線とか面とかそういう形でやはり、やっていくのがこれからの観光だろうと。そしてまた見るだけじゃなくてね、体験するとか、普通の農家の生活を体験してみたいとかいろいろな体験型というのも今、望まれておりますし、様々なことがあります。ソウルというところはですね、1,000万人います。周辺まで含むと2,000万人。東京より人口多いですね、周辺まで含めると。そういうところが秋田や青森にいっぱい来ています。わが県でも呼び込もうというふうに今、戦略を練っている最中でありまして。そういうところは何を求めているかということ、健康志向、山登りしたいとかですね、トレッキング、そして自然の中でゆったりしたいと、海を眺めてゆっくりしたいとかですね、本当に朝日町なんてぴったりなんですよね。海はないけどね、川がありますしね、棚田というようなところもあります。なんかこう、ものすごい観光の資源が豊富な朝日町ですから、どんどん町長さんと県、総合支庁と一緒にやって、広域観光頑張っていくといいんじゃないかなと私は思っているところであります。総合支庁とそれから町長さんもちよっと、長らく出番なかったの、考えをお聞きしたいなと思えます。

(産業経済部長)

産業経済部長でございます。先に「めでためた花のやまがた観光圏」、ちよっとご紹介

させていただきます。ご承知のとおりだと思いますが、温泉と健康、これを共通テーマにいたしまして、2泊3日以上滞り型観光を目指していくと。要するに7市7町が我々村山地域でございます、その中に数ある観光地をですね、連泊してもらいたいと。そういうことで村山の観光客が増えていくような取り組みを、共同してやっていければということでもあります。コンセプト、申し上げますと「ココロに効く、カラダに効く、時速4km〇〇（ほにゃらら）の旅」と、こうしたコンセプトだそうでございます。22年度から5ヵ年の事業期間で総事業費は1億6,000万円にのぼります。これを7市7町と山形県もちろんバックアップさせていただきながらですね、強力にすすめさせていただきたいと思っております。この他にもですね、様々な支援するメニュー、われわれも持ってますし、広域観光キャンペーン協議会でも持ってますので、そうしたものをお使いいただきながらですね、是非当地の観光にご支援を申し上げていきたいというふうに考えております。

(町長)

広域観光というようなことで、観光協会長からもありました、知事からもお答えありまして今、部長さんから話がありました。先ほど、会長さんからもありましたが、朝日町と大江町と白鷹町さんで3町で、広域観光の推進協議会を平成20年に立ち上げて今年度で3年目になります。大江町さんとは西郡というようなことで、村山地域というようなことでいろいろな場面で連携しながら取り組んでいるところが多分にあります。また白鷹町さんとも隣町であります、行政区画というか、行政のエリアが違うというようなことで大江町さんみたいな形の強力な連携は今までちょっと少なかったかというふうに思っていますが、今までもありましたけども、若干少なかったかなというふうな思いもあります。そういった行政権益を超えたこの3町の連携というのが、一つの大きな広域での事業の展開には一つのモデルというふうなことにもなってくるのではないかとのおもいで、この3年目を迎える事業を展開させていただいておりますが、その中で1町だけではなかなか効果もあがりませんが、それを3町で一緒に取り組むことによって2倍どころかも、3倍、10倍そういった大きな、こうエネルギーというか、力、効果が出てくるんだなというふうなことをこの2年、3年の中で改めて実感しております。「めでためでたの広域観光圏」についても7市7町、その一員として朝日町も加わらせていただいておりますが、13号線を中心とした一つの大きな流れとともに、最上川を中心とした287号も非常に貴重な観光資源だなというふうに改めて思っています。そういった中で7市7町もとより、この村山地域と置賜地域をつなぐ非常に重要な位置にあるこの3町についても、今後ますます連携を深めていきながら、さらに交流観光を引き継いでいくことが山形県村山地域のみならず、山形県全体の、総合的な発展に繋がっていくのではないかと私たちも思っているところでありますので、知事はじめ、総合支庁長さんはじめ、皆さんからも今後ともご協力なり、ご指導いただければなと思っております。交流観光につきましても観光協会長も一生懸命がんばっておりますので、どうか県の皆さま方からもご支援、ご協力よろしくお願いたします。

☆それで知事、そういうことで我々も交流観光と一緒にやって頑張っていきます。もう一つちょっとお願いがあるんですが、先ほどから「空気神社」という言葉がありましたけれども、世界に類のない空気神社、空気を祀っている神社なんですけれども6月5日、世界環境デーの中で朝日町では空気の日ということで制定しております。是非、知事大変多忙なところすみませんけれども、6月5、6日と**20**周年記念事業が行われますので、是非参加してください。どうかよろしくお願いします。

(知事)

ありがとうございます。はい、今お招きを、いただいたんですけど、5月の今日、十何日かな、ちょっと厳しいかなという今日、秘書課長がきておりますけれども、その頃、もう入っているようなことも多分、今から来年のこと考えればね、是非来年あたりは私も行ってみたいと思っておりますんで、今年はちょっと確約はできかねますけれども、空気神社ってのは本当に、聞いたことないんですよ。こういう神社って、ものすごいその発想だと思います。世界に発信していける神社だと思っておりますので、本当に国内外からもね、まずは県外からのね、注目してもらいたいなというふうに、私自身も**PR**頑張りたいと思います。

(司会)

ありがとうございました。それでは他の方お願いします。

【15 子育て支援について】

【16 非常勤講師の採用と教育の質の確保について】

☆西町の者です。先ほど子育て支援のことについてお話ありましたけれども、「子育てするなら山形県」とか「朝日町とか」というふうにキャッチフレーズがあって、国でも頑張っておりますし、それから県でも朝日町では当然新しくできた子育て支援センターがあるわけですが、そういう子育てについてのいろいろ受け入れ態勢が、少しづつ充実してきつつあるなあというような感じがしております。やはりそういうふうな受け入れるところがあれば、産みたいっていう人が案外いるんですね。大変ありがたいことだと思っているところですが、先ほどもちょっと話の中にありましたが、最近異常出産があったり、障がいのある子どもがちょっと増えてきているかなっていう話もあつたんですけれども、女の人が妊娠して出産するまでのその期間もやっぱり安心して産み、育てられるの「産み」のところにも入るかと思うんですけれども、非常に環境というのはどうなのかなっていうふうに思っています。こういう社会なのでちょっと厳しい面もあるのですが、やっぱり女の人が**10**ヵ月お腹に子どもを抱えて過ごすその環境作りにも力を注いでほしいと思っています。職場、もちろんですけども、あと地域の中でとか、そういう支えがあつてこそやっぱり子どもが生まれる。そして人口が増えていくということにも僅かながらも繋がっていくのかなというふうに思っています。私も前、公務員だったので、非常に今考えて

もいい環境っていうか、いい条件の中で子どもが産めたなというふうに思っております。もちろん、産前産後休、充分に取れましたし、その後、育児休暇なんていうのもあったんですけども、周りの職場の中でもいろんなところで気を配ってくださって、上司の方から、周りの同僚の方から本当にいい環境で産んだなというふうに思っておりますが、あれから**30**年以上、**40**年経っても、やっぱりそういうところは公務員とか、そういうところのごく一部の職場だけが恵まれていて、本当に全体に降りているかどうかという点も非常に心配しているところなんです。そういう点で支援とか、指導といったらおかしいかもしれませんが、県のほうでそういうものがあればいいなというふうに思っております。もう一つは教育現場でなんですけど、前にも機会で申し上げたんですが、非常に講師の方が多くて、そして非常に情熱を持っていても、採用にならないという方、そして、そういう人たちが担任もしなければならぬ、自分の勉強もしなければならぬ。そうすると本人も不安ですし、子どもたちもどうなのかなってというふうなところも懸念されます。先ほど、出前授業なんていうふうな話がありましたけれども、あの、中学校でも出前授業っていうか掛け持ちの、数校の学校を掛け持ちしている先生もいらっしゃるわけですよ。そうすると、生徒指導の面でどうなのかなって。前にご一緒した先生は非常に目配り、気配りがよくって年配の先生でしたので、非常にかえってよかったかなという気もしたんですけども、まだ中学とか高校の段階では、出前授業というのはどうかなってというふうに思っているところもありますので、その辺もご検討いただければなというふうに思います。以上です。

(知事)

はい、ありがとうございます。子どもを産み育てる環境の整備というものをやはり、これからしっかりしてほしいというこのお話だったと思います。まさしくその子どもを安心して産んで育てることができる、また仕事も両立したいという方もおられるわけですから、その環境整備っていうのは本当に大事なことだというふうに思っております。日本全体が人口減少時代に突入しております。このままどんどんいきますと、労働力というものもどんどん少なくなっていく。消費者も少なくなってくる。数が、物を買う人が少なくなるわけですから、企業とかいわゆる社会全体が活力を失われていくということになっていくわけで、**10**年後、**20**年後考えたら恐ろしいことなんですね。ですから人口というのは、本当に大事な全ての指標になると私は思っておりますので、とにかくなんとかして人口の減少を食い止めたいねっていうような思いから、人口減少抑制策というようなことまで踏み込んでやろうと頑張っているところであります。また、その人口減少の時代におきましては男性だけでなく、女性も働くのが当然の社会になりますし、また結構お年だからゆっくりしてるなということではなく、お年を召した方でも、とにかく定年を延ばしてでも、**60**歳から**65**歳、**65**歳から**70**歳にまで延ばしてでも、元気な限りは働いていただくというのが、そういう社会になっていくわけなんです。実際にそういう状況が進んでいると思います。その中で子どもを安心して産み育てることができるという環境というのは経済

的なこともまずあります。子ども手当てというようなことで、国の方ではやろうとしておりますが、それだけでなく、産んでいる人自身をサポートするというような総合的な政策が必要であります。それからその働いているところに、一旦は育休、子育て休暇をとって休みましても、安心して復帰できるというようなことも大事であります。公務員の方は、それはわりと保証されているのですが、民間はまだまだという段階だというふうに私は認識をしております。少しずつ出てきてはおりますが、まだまだなところが多いんじゃないかと。そこは県がリーダーシップをとって、企業さんと一緒になってね、取り組んでいかなければならない、国へも政策提言して、仕事と家庭を両立できるような、男性も女性も働き方ができるというような方向に進んでいかなければならないというふうに考えているところでございます。それから2点目の教員の出前授業のお話ですが、まさしくその出前授業というような形態になれば、おっしゃるように指導面というところが心配される点がありますので、やはりそのところもしっかり教育委員会でいろいろなこと考えながらやっていかなければならないというふうに思います。単位制の高校というのもいくつかできておまして、そこがですね、やはり大学生みたいに「学生、自由にどうぞ」というのではなくて、やはり単位を取るにしても教師、教員、高校の教員が相談にのりながら、指導しながらという形でやっていると聞いておりますのでね、やはりそのところ充分に考えながらやってほしいということを私からも戻って言ってまいります。ありがとうございます。